

京都教区時報

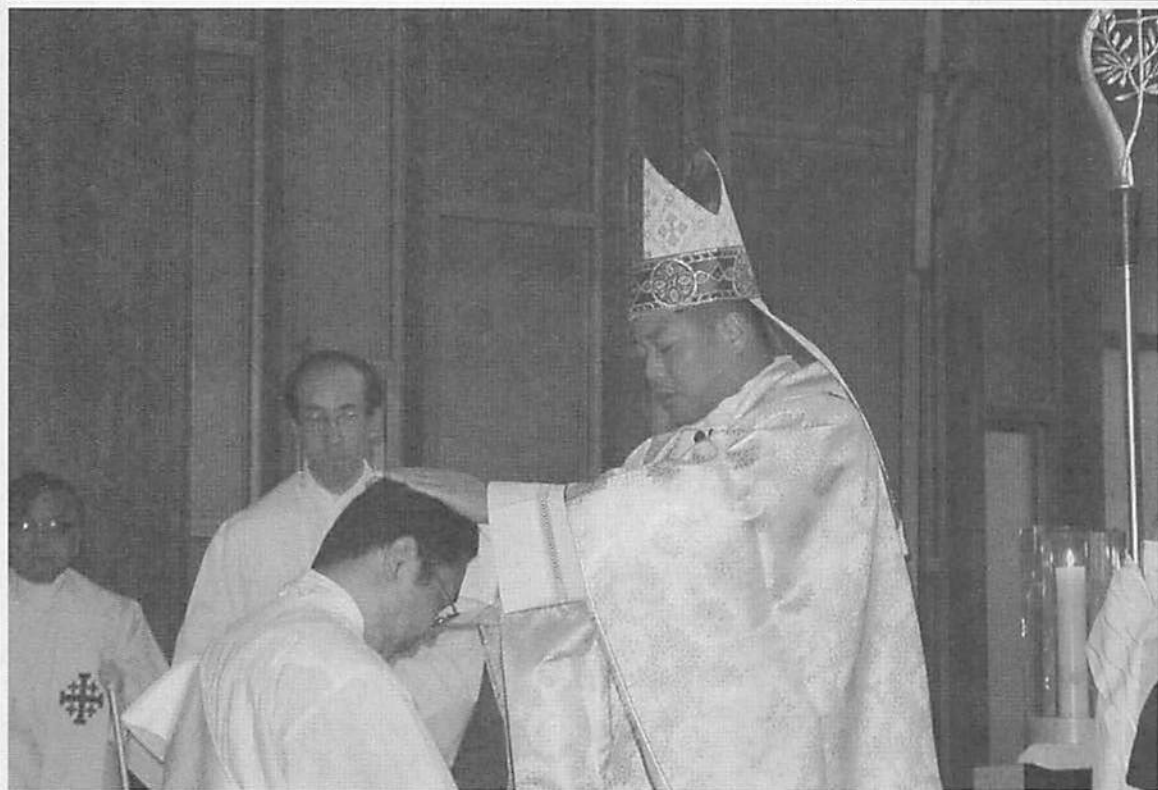
発行 京都司教区
責任者 村上 透 磨
京都市中京区河原町
三条上ル
カトリック会館
FAX
075-211-3041
「教区時報」宛と明記

Home Page <http://www.kyoto.catholic.jp> (変更)

3～5頁 2001年度会計報告

8頁 「世界広報の日」 教皇のメッセージ

点訳版「京都教区時報」〈無料〉
ご希望の方は点訳ネット「レジ
ナ」代表嶺崎(たけざき)裕子さ
んまで申込みください。
TEL・FAX 0794-31-8601



未来の展望と飛躍

教皇様は、未来に展望を持つことはキリスト者の務めであり、大聖年で受けた恵みを「新しい決意や具体的な今後の方針に活かす」ことが必要であると言われました。

人は誰しも自分の安定した場所を求めます。そこにいる限り安全であり、安心を得ることが出来ます。しかし、そこに留まっていたら人間としての成長は望めません。不安だけれども勇気をもって未知の世界に一步踏み出すとき、人は新しい体験をします。そして自らの経験則による自信と驕り、また自分自身と今まで自分が身を置いていた世界の小ささに気づかれます。この気づきが人間に成長をもたらすのです。

京都教区では、このように、今よりも一步踏み込んで、福音宣教する共同体になるために、教区内のすべての小教区で共同宣教司牧の推進に取り組んでいます。

(写真は、奥村豊
司祭叙階式の司教
按手の場面です)

5
2002

叙階された新司祭に聞く

奥村 豊新司祭

京都教区に九年ぶりに新しい
教区司祭が誕生しました。伏見
教会出身の奥村 豊神父です。

三月二十一日(祝)参列者でいっ
ぱいにあふれた河原町司教座聖
堂で、大塚喜直司教により叙階
式が執り行われました。編集部
からの三つの質問に対して奥村
神父から、メッセージを寄せて
いただきました。

司祭になると思った動機

洗礼を授けてくださったチャー
リー神父様が亡くなられたこと
です。故国を離れて日本に骨を埋め
た宣教師の魂に触れて、その情熱
の背景に確かに何かがあったのだ
と感じました。そしてその志を継
いでほしいと思いました。また、



年齢的にも
自分の生き
方を探して
いた時期で
もあり、
チャーリー

神父様のことは大きなきつかけと
なったと感じています。

司祭になるまでの苦労話

入学したての夏休み、思わぬ病
気にみまわれました。ギラン・バ
レー症候群という多発性神経炎の
一種ですが、全身の運動神経が麻
痺して自発呼吸もできず、人工呼
吸器のお世話になりました。八十
三日間話すことができませんでした。
症状はさまざまで、人によっ
ては発病したその日のうちに治っ
て帰宅する人もい
るそうです。死亡
率は5%、生涯何
らかの後遺症を背
負うことになる率
が15%だといいま
す。

わたしの場合、
重症のほうでした
が予後は順調です。
しかし、15%の中
にあるといつてよ



いでしよう。一年の休学の後、復
帰したが今でも後遺症は残ってい
ます。体が思うように動かないこ
とを人に理解してもらえないのはな
かなか難しいことです。でも命ある
ことの有難さを常に感じることで
できる、これ以上の恵はないでし
う。その他、神学生なら当然する
であろう苦労はあったと思います
が、あまり覚えていないというこ
とにしておきましょう。

司祭としてどんな事をしたいのか
信徒の皆さん一人ひとりが福音
宣教師として喜びを持って歩んで
いけるようにできるだけのお手伝
いをしたいと思っています。子供の中
にもお年寄りの中にもキリストが
隠れておられます。そのキリスト

を一緒になって探し、見つけその
喜びを分かち合いたいと思います。
その喜びを持って隣の人へ、また
隣の人へと伝えていける心のネッ
トワーク作りが自分の仕事になる
のではないのでしょうか。とはいえ、
何か特別なことができるほどの才
能もない私にとっては、ミサと祈
りと病床訪問、共同体作りという
基本的な事柄を誠実に努めさせて
いただくことから始めて、あとは
来るなら来いという気持ちです。
皆さん、今までの祈りに心か
ら感謝いたします。これからとも
に沖へ漕ぎ出しましょう。私たち
の手で新しい教会をつくっていき
ましょう。主よ、あなたの愛の息
吹で私たちを新たにしてください。

2001年度カトリック京都司教区会計収支報告

いつも京都教区のために、信徒の皆さまからのお祈りと経済的援助を賜り、感謝申し上げます。また、各小教区・修道院・学校施設の各位からの、特に財政面での寛大なご協力にも感謝申し上げながら、2001年度カトリック京都司教区の教区本部会計収支報告及び小教区会計収支報告をいたします。

〔所轄庁への書類提出義務〕

皆さまご存知の通り、宗教法人法及び租税特別措置法の定めるところにより、教区本部会計および小教区会計の、財産目録、貸借対照表、収支計算書を所轄庁である文化庁に、また、収支計算書を所轄税務署にも提出することになっています。

宗教法人に求められている正しい報告のため、より一層皆さまのご協力をお願いいたします。

〔小教区納付金Aについて〕

小教区納付金Aとして、教会維持献金とミサ聖祭献金【クリスマス、復活祭等大祝日を除く】の15%をお納めくださるようお願いしています。ほぼ全小教区からご協力をいただき、ある小教区からは規定額以上のご協力をいただきました。

しかし、教区納付金Aの金額は年々2～3%の漸減傾向にありますので、一層の創意と努力をお願いしながら、教区財政に対する寛大なご協力に対して、この紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

〔小教区納付金B（司祭給与分）について〕

1999年より、司祭給与相当額の総額を、教区内全ての教会の維持費総額で分担していただく方式に変わりました。小教区納付金Bについても、皆様の寛大なご協力の結果と司祭給与の引下げと賞与カットを含む新「司祭給与システム」の実施により、司祭給与相当額での教区持出しはなくなりました。

〔総合的に〕

- ① 2000年度と比べて小教区からの納付金Aの総額は1,102千円（2.5%）、納付金Bの総額は1,593千円（2.2%）、納付金Cの総額は1,421千円（3.8%）と、それぞれ減少しております。教会財政安定のためにもより一層のご尽力をお願いいたします。また、神学生養成基金としての「一粒会献金」は、前年対比455千円（3.9%）増加のご協力をいただきました。重ねて感謝申し上げます。
- ② 2001年の支出を見ますと、昨年に比べ「経常支出」で2,344千円の減となり、総じて節約によるものであります。なお、土地購入に1,681千円の支出がありますが、これは田辺地区特定区画整理事業に伴う保留地売買契約によるものであります。
- ③ 本年も皆さまの寛大なご協力のおかげで黒字決算となりました。土地賃貸借に起因する寄付金収入から50,000千円を「福音宣教基金」に積み立てることができました。この基金は、将来の福音宣教活動及び高齢司祭のための基金となります。
- ④ 司教座聖堂は築後35年を経過して大規模リニューアルが必要になってきました。これの資金に充当するために、司教・司祭司牧納付金、小教区納付金（A）・（B）・（D）及び福音宣教協力金の15%を「司教座聖堂修築積立金」として、新たに22,600千円を積み立てることにしました。
- ⑤ 一時期に比べると、ずいぶん教区財政も落ち着いてきましたが、司祭・信徒の高齢化を考えますと、将来に向けて決して楽観はできないと思います。20才以上で収入のある方は、収入の3%を目安として、教会維持献金の納入と個数増加の取り組みをお願いします。

2002年4月

カトリック京都司教区

本部事務局 北村 善朗

京都司教区 2001年度 教区本部会計収支報告書

自2001年1月1日 至2001年12月31日

(単位:千円)

科 目	実 績	科 目	実 績
I 経 常 支 出	207,719	I 経 常 収 入	318,381
1 福 音 宣 教 活 動 費	53,582	1 納 付 金 収 入	207,218
祭 儀 費	264	司 教 司 牧 納 付 金	2,861
教 育 養 成 費	4,531	司 祭 司 牧 納 付 金	20,512
諸 委 員 会 活 動 費	869	小 教 区 納 付 金 (A)	44,074
教 区 事 業 活 動 費	45,439	小 教 区 納 付 金 (B)	73,614
諸 活 動 団 体 補 助 金	660	小 教 区 納 付 金 (C)	36,660
会 議 費	1,624	小 教 区 納 付 金 (D)	1,936
図 書 費	195	福 音 宣 教 協 力 金	7,980
		建 設 分 担 金 収 入	19,581
2 寄 付 金 支 出	220		
3 特 定 献 金 支 出	16,175	2 寄 付 金 収 入	94,988
4 人 件 費	122,293	一 般 寄 付 金 収 入	4,238
司 祭	46,597	収 益 部 門 収 入	21,600
教 区 職 員	39,036	そ の 他 の 寄 付 金	69,150
小 教 区 職 員	36,660		
5 維 持 管 理 費	5,523	3 特 定 献 金 収 入	16,175
6 事 務 管 理 費	9,926		
II 墓 地 勘 定 支 出	2,495	II 墓 地 勘 定 収 入	8,051
墓 地 管 理 費	2,085	永 代 使 用 料 収 入	2,820
墓 苑 整 備 費	410	管 理 収 入	5,231
III 特 別 勘 定 支 出	29,776	III 特 別 勘 定 収 入	16,655
一 粒 会	3,735	一 粒 会	11,955
ア ジ ア 基 金	19	ア ジ ア 基 金	1,278
一 万 匹 の 蟻	3,422	一 万 匹 の 蟻	3,422
司 教 座 修 築 積 立	22,600		
IV 資 産 支 出	94,598	IV 資 産 運 用 収 入	9,079
土 地	1,681	預 金 利 息 収 入	9,079
建 設 勘 定	40,574	土 地 売 却	0
建 物 付 属	334	預 金 取 崩	0
構 築 物	998		
什 器 備 品	361		
車 両	650		
福 音 宣 教 基 金	50,000		
V 予 備 費	0	V 雑 収 入	20
支 出 計	334,588	収 入 計	352,186
次 期 繰 越 金	58,872	前 期 繰 越 金	41,274
支 出 合 計	393,460	収 入 合 計	393,460

京都司教区 2001年度 小教区会計収支報告書

自2001年1月1日 至2001年12月31日

(小教区数: 57)

(単位: 千円)

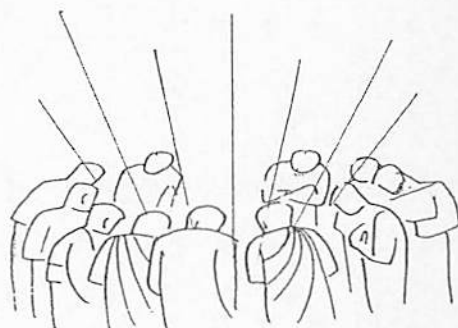
科 目	実 績	科 目	実 績
経 常 支 出 の 部		経 常 収 入 の 部	
(宣 教 司 牧 費)	83,806	(信 徒 通 常 献 金)	276,678
祭 儀 費	17,618	教 会 維 持 献 金	216,621
司 牧 費	3,770	ミ サ 聖 祭 献 金	44,232
委 員 会 活 動 費	7,182	大 祝 日 (特 別) 献 金	15,825
宣 教 広 報 費	3,819	(特 定 献 金)	21,184
宣 教 育 成 費	978	(特 別 献 金)	122,390
養 成 費	2,090	祭 式 献 金	31,870
青 少 年 育 成 費	3,996	一 般 特 別 献 金	55,793
新 聞 図 書 費	2,374	営 繕 献 金	11,298
会 議 費	655	建 設 献 金	19,287
行 事 費	10,782	墓 地 納 骨 堂 建 設 献 金	128
慶 弔 費	5,112	特 別 事 業 献 金	4,014
援 助 費	21,732	(助 成 金 収 入)	18
諸 団 体 分 担 費	3,698	教 区 助 成 金	18
(特 定 献 金 支 出)	21,366	修 道 会 助 成 金	0
(納 付 金 支 出)	161,039	(墓 地 ・ 納 骨 堂 等 収 入)	4,991
教 区 納 付 金 支 出 (A)	39,922	非 課 税 永 代 使 用 料 収 入	748
教 区 納 付 金 支 出 (B)	66,957	課 税 永 代 使 用 料 収 入	0
教 区 納 付 金 支 出 (C)	31,961	管 理 料 収 入	3,176
教 区 納 付 金 支 出 (D)	1,868	そ の 他 納 骨 堂 等 収 入	1,067
修 道 会 納 付 金 支 出	720	(補 助 活 動 収 入)	2,944
建 設 分 担 金 支 出	19,611	(雑 収 入)	770
(運 営 管 理 費)	102,782	(資 金 運 用 収 入)	36,454
(補 助 活 動 支 出)	1,068	預 金 利 息 収 入	36,036
(墓 地 ・ 納 骨 堂 管 理 支 出)	947	受 取 配 当 収 入	24
		信 託 利 子 収 入	394
経 常 支 出 合 計	371,008	経 常 収 入 合 計	465,429
財 務 支 出 の 部		財 務 収 入 の 部	
(固 定 資 産 支 出)	77,764		
建 物 附 属 設 備 購 入 支 出	16,352		
構 築 物 購 入 支 出	2,639		
祭 儀 備 品 購 入 支 出	1,105		
器 具 備 品 購 入 支 出	1,920	(固 定 資 産 収 入)	38,776
墓 地 使 用 権 取 得 支 出	0	特 別 目 的 預 金 取 崩 収 入	38,776
特 別 目 的 預 金 積 立 支 出	55,748		
(固 定 負 債 支 出)	1,500	(固 定 負 債 収 入)	0
長 期 借 入 金 返 済 支 出	1,500	長 期 借 入 金 収 入	0
(そ の 他 の 財 務 支 出)	21,105	(そ の 他 の 財 務 収 入)	13,603
(資 金 調 整 勘 定)	△2,879	(資 金 調 整 勘 定)	0
財 務 支 出 合 計	97,490	財 務 収 入 合 計	52,379
支 出 合 計	468,498	収 入 合 計	517,808
次 期 繰 越 金	306,217	前 期 繰 越 金	256,907
合 計	774,715	合 計	774,715



カトリック 福音センター ニュース



天におられる私たちの父



自分にとって祈りって何でしょうか。

毎日のめまぐるしい生活の中で、やりたいこと、解決したい問題が山積みしている中で、私たちは何を選び、求めて生きているのでしょうか。私たちの祈りは、生活を統合し導いているのでしょうか。

聖書には、祈りが聞き届けられ、救われた、恥を取り除かれた、癒された、自由になった人々の話がたくさん出てきます。

彼らにとって祈りは、儀礼的な形式だけでなく、熱望をこめて魂を注ぎ出すことでした。

神に向かって着飾らず、必ず願いがかなえられるという信念・信仰に裏付けされた祈りです。

この研修が、神の子供としての信頼と親しさを深め、魂の水・命の源泉に触れる祈りへと導かれることを願っています。

琵琶湖畔での2泊3日の機会を是非ご利用下さい。参加をお待ちしております。

講師 松本秀友 師 ・ 福音センター（シスター・安井昌子）

日時 2002年6月21日（金）4時～ 23日（日）3時半

会場 唐崎ノートルダム修道院 〒520-0106 大津市唐崎1-3-1
（JR湖西線唐崎駅下車 徒歩10分） TEL 077-579-2884

申込み 6月12日（水）迄に！

郵便番号・住所・氏名・電話番号をご記入の上、

参加費 20,000円 を下記へお振り込み下さい。

郵便振替口座番号 00920-4-161844

「カトリック福音センター養成コース」宛

〒604-8855 京都市中京区壬生淵田町26 カトリック福音センター

電話番号 075-822-7123 FAX 075-822-7020

Eメール fukuin@kyoto.catholic.jp



「共同宣教司牧・養成コース」に参加して

(奈良教会 中田俊行)

共同宣教司牧の推進に携わるものとして推薦を受け参加しました。その意味では、消極的参加ということになります。

テーマから考え、何か具体的なことを大塚司教・福音センタースタッフの皆様から示していただけるのではないだろうかという気持ちもありました。2日間の研修を受けて得たものは形に見えるものではないということがわかりました。

1日目の司教様の基調講話によりますと、福音宣教の源泉が教会のこころ、霊性にあるということです。そこから共同宣教司牧の本質を知り、福音宣教の意識・理解の変化を知ることによって、共同宣教司牧の短期的課題、長期的課題が見えてくるということでした。

この基調講話を受けて、ハイメ神父は聖書の“みことば”から神は、今私たちに何を求めておられるかを講話されました。また、シスター安井は、福音宣教を実践し、推進していくために最も大切なことは、神の“みことば”をよく聞き、味わうことだということをくりかえして強調されました。

私たちはどうしても共同宣教司牧のため、これこれをしなさいということを考えてしまいます。しかし、この2日間の研修で少しずつわかって来たのは、信徒一人ひとりが聖書の“みことば”を味わうことによって、今何を神が求めているかを知ることができるということです。

言葉をかえて言えば、神の“みことば”(福音)を読み、黙想し、祈り、味わい、識別し、決意し、実行し、伝え(宣教)、祝う(典礼)ことであるということでした。

私はブロックごとに何か共同で行なうことが共同宣教司牧であると思っていました。

一番大切な基本・本質である神の“みことば”をじっくり味わうことに欠けていたということがわかりました。2日間の研修を通して光が少し見えて来たように思います。

京都教区全地域から参加された33名の信徒一人ひとりに感想をお聞きすることができませんでしたが、私がお話したすべての人が「参加して良かった」ということでした。

きっと自分ひとりの心の中にとどめることなく、各小教区へもどり少しずつ周囲の人たちに伝えていくものと信じています。

この2日間をていねいに指導して下さいました大塚司教・福音センタースタッフの皆様には感謝いたします。

**神は教会の中にいろいろな人をお立てになりました。
使徒…預言者…教師…病気を癒す賜物を持つ者…
援助する者……あなたがたは、もっと大きな賜物を
受けるよう熱心に努めなさい。**

(コリントの信徒への手紙Ⅰ 12・28～31)



教皇ヨハネ・パウロ二世「世界広報の日」メッセージ

インターネット福音宣教の新たな場・フォーラム

インターネットは、確かに新たな「フォーラム」です。それは、古代ローマにおいて、公共の場として、政治や商取引が行われ、宗教的義務が遂行され、都市の社会生活の大半が営まれた所です。インターネットによりもたらされた

この仮想空間は、新千年期の初めに開かれた新境地です。教会はこの新しいメディアに、現実的に、そして自信をもってアプローチします。他のコミュニケーションメディアと同じく、それは手段に過ぎず、決してそれ自体が目的ではありません。インターネットは、適切に、そしてその力と弱点を正しく意識して使えば、福音宣教にとってすばらしい機会を与えてくれるものです。それはとりわけ、情報を提供し、興味を呼び起こさせることによって、キリスト教的メッセージとの初めての出会いを可能にします。このことは特に、世界への窓口としてサイバースペースの世界へ向かう傾向が強い若い世代の人たちにいえることです。こうした理由から、大切になる

のは、キリスト教共同体が実践的な方法を考案し、インターネットを通して初めて接触してきた人たちが、サイバースペースの仮想世界から現実のキリスト教共同体世界へと移行する助けとなることです。

その次の段階で、インターネットは、福音宣教で必要とされる追跡ケアをも可能にしてくれます。特に、確固とした基盤のない文化の中で暮らしている場合には、キリスト者として生活していくための継続した指導やカテキーシスが必要になります。こうした分野でこそ、インターネットがすぐれた助けとなると思われます。インターネットを通して、今まで考えられなかったような方法で人々が接触しているという事実は、福音を広める上ですばらしい可能性を開いてくれます。しかし同時に、電子的に築かれた関係が、真の福音宣教に必要な人間同士の直接の接触に決して取って代わることはできないこともまた真実です。

(編集部の責任により抜粋)

広報手段としての

インターネット

京都教区の広報手段としては、長らく教区時報が使われてきました。ところで、教区ビジョンの見直しと第一回福音宣教推進全国会議の具体化の中から出て来た重要な課題に「パイプのつまり」(情報交換や意思の疎通、対話のつまり)がありました。

パイプのつまり? どこがつまりているのかな。(教区時報第136号1998年9月号3頁の)図による情報の流れを表しますと次のようになります。

A 伝えたいメッセージがあります。

B 伝えるべきだと判断して、どのような手段や方法を使うかを決めて流します。

C 水は蛇口を流れます。蛇口を開くか開かないかは受ける側の決意と判断に左右されます。

D 関心と興味、必要性に応じて水おけに水をためたり、流しっぱなしにしたりします。

E 水おけの水を利用したりします。

つまり、せっかく教区時報が編

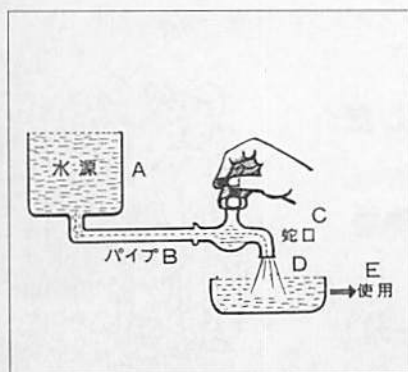
集され、各小教区に送られても、それを取り上げて読まれない限り、情報は伝わらないことになります。教皇が指摘されていますように、

インターネットは特に若い世代の人たちへ情報を提供する手段として大切な役割を持ってきています。教会に足を運ぼうと思わなくても、ホームページにアクセスするだけで簡単に情報が得られます。

京都教区のホームページは次のアドレスにアクセスして下さい。教区時報の最新版と、一九九四年以降のバックナンバーを見ることが出来ますし、検索も可能です。京都教区のいろいろな情報を知ることが出来ます。

<http://www.kyoto.catholic.jp>

(文責・瀧野)



こんにちはシスター

マリアの御心会

草津共同体

多田千寿子(写真右から)

前原昭子

大原悦子



私たちは約十年前に、幼児教育のため京都教区から呼ばれ、土地に不慣れな二人が東京から派遣されました。一人は幼稚園、一人は教会の使徒職をしています。幼稚園は地域の人々に教育の良さが知られ、毎年たくさんの子供たちが来ます。また園児の母親教育に力を入れてきたためか、母親による自主活動も盛んです。

教会活動では、堅信の勉強会から中学生会ができました。今では体験学習の費用作りのため、月一回の販売を通して交流の場になって

信徒に喜ばれています。昨年はフィリピンへ出かけることが出来ました。体験した中学生が、今は、高校生会を作り活動しています。司祭、修道者が共に活動をし、という目的で祈りの集い「オアシス」を発足し、すでに三年が過ぎました。今は様々な祈りを体験しながら湖東ブロックに広がっています。

マリアの御心会はキリストの愛に燃えて、マリアにならって生きたいと望む二人の創立者の出会いから生まれました。フランスで修道生活が禁止されていた二百余年前に、修道者であることを秘密にして生まれた会です。今日その起源にそって外面から修道者であることが分かるしるしは何も持ちません。修道者とは知られずにどんな場にも入り、どんな状況でも生きることが出来ます。今、世界では三十カ国に会員がいます。日本では一九五九年に、上智大学に女子の明泉寮を始めたのが最初です。この寮はこの四月から女子学生会館として生まれ変わり、引き続きそのお世話をしています。一人ひとりの会員が、教会と人々の必要に応え、活動をしています。

福祉の窓

児童福祉施設

マリア保育園

当園は昭和四十九年四月一日、故ツシエット神父様のご尽力によって設立されました。交通の便に恵まれた伊勢市のほぼ中央に位置しながらも、隣接する教会の静けさと、外宮の森の緑を臨むことのできる恵まれた環境にあります。当初、定員は九十名でしたが、平成八年に百二十名となり、十年には増築して現在に至っています。

『私たちをいつも見守ってくださる神様を知り、愛し、たたく、感謝のできる子として育つ』という保育方針のもと、人々との関わりで愛し愛されることを数多く体験できるよう援助し、一人ひとりの個性を大切に保育を行っています。

毎年、地域の行事で鼓隊を披露するなど、地域とのふれあいの場にも積極的に参加しています。保育サービスの大きなうねりの中で、利用者のニーズも多様化していますが、少しでも要

望に添えていきたいと職員一同心を合わせてがんばっています。

特別保育事業

- (1) 地域交流事業：親子ふれあいの教室・園庭開放・お年寄りとの交流(老人ホーム訪問や託老所入所者の当園訪問)
- (2) 乳児保育促進事業：生後三カ月からの受け入れ
- (3) 延長保育事業：午前七時五十分から午後六時まで

〒516-0036

三重県伊勢市岡本一丁目三三

電話 0596(25)7490

FAX 0596(25)7525



お知らせ

福音センターから

◆養成コース▼病人訪問コース—
いやされるかわり、救いをもと
めて— 10日(金) 15時〜12日
(日) 15時 宝塚黙想の家 講師
沼野尚美氏

教区委員会から

◆信仰教育委員会▼みことばを祈
り、分かち合い、学ぼう—青年の
ために聖書深読—6日(月) 9時
半〜17時 場所 聖ドミニコ女子
修道会 会費 五百円(昼食代)
対象 青年男女 持ち物 聖書、
筆記用具 申し込み 聖ドミニコ
女子修道会 シスター安達 電話
075(231) 2017 FA
X(222) 2573

◆聖書委員会▼聖書深読25日(土)
奥村一郎師10時〜16時 場所 河
原町会館6階 費用二千五百円
(昼食代を含む)、持参品 聖書・
筆記用具・ノート(お申込みは5
日前までに)

◆典礼委員会▼教会の祈りと聖体
賛美式 第一日曜日17時半 河原
町教会、第三土曜日16時半 衣笠
カルメル修道会

◆部落問題委員会・正義と平和京
都協議会▼狭山事件の緊急署名の
お願い・委員会まで

地区協議会から

◆滋賀カトリック協議会▼安土セ
ミナリヨ記念ミサ・合同堅信式26
日(日)

◆奈良カトリック協議会▼右近こ
どもまつり5日(日) 奈良県榛原
町沢「高山右近顕彰碑前」
協議会19日(日) 14時 大和郡
山教会

小教区から

◆河原町教会▼マリア展—マリア
を通してキリストへ—3日(金)
〜5日(日) 地下聖堂 主催 師
イエズス修道女会

◆九条教会▼藤堂師追悼式26日
(日) 9時ミサ中

◆西院教会▼講演会「カリタスの
お金はどこへ行く」—第三世界の
現状と援助—11日(土) 19時 聖
堂 講師 カリタスジャパン菊池
功師 入場無料

教育関係施設から

◆セントヨゼフ女子学園高等学校・

良書紹介

☆観方を変える

私たちは、ある限られた先入
観にとらわれがちです。

『三匹のこぶた』に代表され
るように、狼はいつも弱いもの
を襲う悪者にされているよう
です。

それをくつがえすような一つ
のおもしろい絵本を紹介しまし
よう。

『3匹のかわいいオオカミ』

ユージン・トリビガス 文
ヘレン・オクセン 貼り絵
(富山房)

三匹のやさしい狼が仲良く暮
らしていました。そこへ大豚が
やって来て、ハンマーで打ちこ
わしてしまいました。今度は、
コンクリートの家を建てる
と、ドリルでこわしてしまいました。
次は鉄骨作りの鉄条網に囲まれ
た家を建てる、ダイナマイト
でぶっ飛ばしてしまいました。
そこで今度は花の家を建てまし
た。

すると今度は大豚は花の香り
にさそわれて踊り出しました。
三匹も家から出て来ると一緒に
踊り始めました。それから四匹

は、仲良く幸せに暮らしたとい
うことです。

次は

『オオカミと羊』

アンドレ・ダーハン作(宝島社)

羊と仲良くしたいと狼は、羊
たちのために一生懸命に奉仕を
するので、羊たちには敬遠
され、羊飼いは追いつかれ
てしまいます。狼は忘れていた
笛を見つけると羊たちの寝てい
る近くで、笛を吹き始めました。
羊たちはその美しい音にさそわ
れて踊り出しました。羊飼いは
それをみて驚きましたが、彼ら
も一緒に踊り始めました。
こうして羊も狼も羊飼ひも仲
良くやさしい友達になりました。

この二冊の本を見て何を感じ
られるでしょう。私たちは一つ
の固定観念で悪人と善人を決め
てしまっています。しかし観方
を変えてみてはどうでしょう。
そうしたら、きっとやさしく平
和な交わりが訪れるのではない
かと、ほのぼのと読んでみるの
です。

中学校▼創立記念日1日(今年は
振替)

◆日星高等学校▼創立記念日1日

◆ノートルダム学院小学校▼運動

会18日(土)

◆聖母教育文化センター▼聖書講

座 講師 安藤敬子▼英会話▼文

化講座▼イタリア巡礼旅行8月20

日〜28日▼以上問合せは電話07

5(643) 2320

諸施設・諸活動から

◆親交会▼2002年度春季例会

12日(日) 13時半 西院教会聖堂

でミサ、信徒会館で懇談

◆JOC(働く若者の集まり)▼

集会25日(土) 19時半〜21時 京

都働く人の家(九条教会会館)フリー

ターや働く予定のある青年も歓迎

します。問合せ 岩崎祐二090

(8193) 0808

◆京都カナの会▼結婚相談室、例

会5日(日) 13時半 河原町会館

6階ホール

◆京都カトリック混声合唱団▼練

習日12日(日) 14時 河原町会館

六階和室、25日(土) 19時 河原

町会館▼新団員を募集します。練

習見学はご自由どうぞ

◆京都キリシタン研究会▼都の聖

母奉賛ミサ14時 將軍塚

◆コロチエレステ▼練習第2、

第4、第5木曜日10時〜12時 河

原町会館6階ホール

◆子羊会▼黙想会19日(日) ウィ

チタ聖ヨゼフ修道院本部

◆在世フランシスコ会▼京都兄弟

会18日(土) 13時半フランシスコ

の家

◆NGOフランシスカンズ・イン

ターナショナル・ジャパン関西支

部▼例会11日(土) 14時 フラン

シスコの家

◆聖ビンセンシオ・ア・パウロ会

▼例会(河原町協議会) 12日(日)

河原町教会▼京都中央理事会26日

(日) 河原町教会

◆鎌みその会▼例会30日(木) 19

時45分 九条教会ホール

◆レジオ・マリエコミチウム▼19

日(日) 河原町会館6階ホール

◆「一万匹の蟻運動」基金報告

累計 三二、一六五、三三二円

(3月19日現在)

◆お詫びと訂正 293号(4月

号)の記事に誤りがありました。

▼9ページ「聖書講座シリーズ19」

の記事において、タイトルが間違っ

ていました。本年のタイトルは

「二〇〇匹の羊の群れ」―聖書に

みる福音宣教共同体―でした。

結婚相手をお探しします

―京都カナの会二十五周年―

京都カナの会は、未婚の信者と信仰に理解のある未婚者の会員の縁組みを促進し、幸せな結婚を通して世に証をすることを目的として活動しています。

東門神父様のご指導のもと、京都南部の十三の教会から選ばれた二十五名の委員がお世話に当たっています。委員は年会費三千円をいただいで登録しており、三月一日現在で男性四十四名、女性八十一名です。

昭和五十三年にそれまで河原町教会を中心に結婚相談所として活動していたグループを改編して、教区の宣教活動組織として新たにスタートしましたので、今年で二十五周年を迎えることになりました。

私たちの活動は下記のようにほぼ毎月定例会(情報交換、行事、運営についての協議)、結婚相談室(入会希望者への趣旨説明、登録会員の個別相談)、そして年一、二回の会員のパーティを催しています。また会員のご希望があれば個別にいつでもご紹介しています。

最近では京都教区外の他の教

区のカナの会との連携も進めて、全国的に紹介するネットワークも出来ており、幅広い活動が出来るようになりました。

これまでの二十四年間で七十五組の婚約成立となっております。ご指導いただいた神父様方、先輩委員の方々のご努力に心から感謝いたします。私たちこの流れを受け継ぎ、結婚を契機として一人でも多くの人が神との出会いがあるよう祈りながら、この活動に励みたいと思います。

今後の予定

◎定例会及び結婚相談室

五、六、七、九、十、十二の

各月第一日曜日午後一時半から三時まで

◎会員のパーティ

十月第一日曜日午後一時半から三時まで

場所はいずれも河原町会館六

階ホール

結婚を希望されるご本人、あるいは希望者を推薦される方は、

どうぞご遠慮なく各教会の委員

にお申し出いただくか、結婚相

談室にご相談にお越し下さい。

大塚司教の

5月のスケジュール

- 5日(日) 右近こども祭
7日(火) 青年担当者会議 14時
メリノール会総会ミサ
(唐崎ハウス) 16時45分
8日(水) 中央協機構改革委員会 15時
時
カトリック新聞チーム 16時
9日(木) 中央協常任司教委員会 10時
11日(土) 聖母の小さな学校訪問
(舞鶴) 14時
12日(日) 細川ガラシャ顕彰ミサ
(味土野) 10時
14日(火) カリタス会理事會 14時
15日(水) 京都・京都南学法理事會
14時
18日(土) 共同宣教司牧推進チーム
第一回 14時
19日(日) 聖霊降臨 河原町聖信ミサ 10時半
21日(火) 滋賀学法理事會 14時
23日(木) 司教顧問会・責任役員会 10時
司教評議会常任委員会 14時
26日(日) 安土セミナーオ滋賀聖信 時

ミサ

27日(月) 28日(火) 青少年委員会

研修会

30日(木) 司教全体集会 10時半 司教評議会 15時

評議会 15時

31日(金) メリノール女子学院理事會 14時

会 14時

◆帰天

フランシスコ・ザビエル茨木晃師
(イエズス会)。
一九二二年スペイン生まれ。

一九四八年来

日、一九六七

年帰化、一九

七〇年から

京都で司牧。

二〇〇二年三月二十九日(聖金曜

日) 帰天。永遠の安息のために祈りください。



◎司教訪問を迎えるのにどのような方法がいいのでしょうか。とにかく迎えるまでが勝負です。(S)

◎よりよき紙面になりますように、聖母の取り次ぎを切に願っています。(Y・T)

日韓学生交流会に参加して

奈良教会 伊藤光子

二月十四日から二十一日にかけて、韓国との交流という所です。『第七回日韓学生交流会』が開かれました。日本からは約二十人の学生が、韓国からは約三十人の学生が参加しました。韓国チームは、日本から来た私たちを、心から歓迎してくれました。

十五日からの三日間は、それぞれが韓国の家庭にホームステイをしました。私がホームステイした家は、一人暮らしの女の子の家でした。彼女は、日本語を六カ月勉強したことがあり、ゆっくりと話せば、私の言っていることをほぼ理解することができました。彼女とすごした三日間はとても楽しいものでした。たいしたところに行ったわけではないけれど、彼女のボーイフレンドや、大学の先輩たちと、ジェスチャーまじりのたどたどしい英語でコミュニケーションをとったり、一緒に食料品を買いに行ったり、韓国のラーメンを食べたり、韓国の伝統的なお酒を飲んだりして、彼らと一緒に時間を過ごしていることが、私にとっては、本当にうれしいことでした。

十八日からは全員で合宿をしました。この合宿のテーマは「私たちはひとつ! ウリヌン、ハナ!」です。私たちは一緒に、慶州という所を観光したり、私たちが日ごろ大切にしていることについて話したり、一緒にダンスをしたりして、とても仲間になりました。私は、最後の共同体ミサの主の平和の握手のとき、涙がポロポロこぼれました。みんなと明日にはお別れしなければいけないことが、とても悲しかったからです。この涙に、私たちの奥深くにあるものは同じで、私たちはひとつに結ばれているのだということを教えられました。

私はこの交流会に参加して本当に良かったと思います。これから、未来に向けて日本の若者と韓国の若者が協力しあって、たくさんさんの問題を解決していけたらと思います。